労働組合・社会運動団体の活動家のための連続講座　東京労働学校第 134 期

講座・岐路に立つ日本

危機的な状態が続く日本社会を、労働運動、社会運動はどのようにとらえ、どのように変えるべく闘えばよいのか。不安定・低賃金・高ストレスの仕事が蔓延し、社会保障は削られ、怒り、うらみ、絶望が社会に充満している。だが、それにもかかわらず、労働組合はその力を拡大してはいない。労働組合が強くなり、現在の資本独裁状況を打ち破らなければ、人々は分断され、目先の自己防衛と「自己責任」論にうちひしがれたままだろう。

しっかりした知識と理解枠組がなければ、労働組合や社会運動の現状を大きく変えて、人々に希望と展望を与えることはできない。現在の労働苦と貧困はなぜ、どのように生じているのか。新自由主義はなぜこれほど世界中の人々を苦しめ続けるのか。世界の労働運動、社会運動が蓄積してきた対抗枠組みはどのようなものか。そもそも労働組合は何をする組織なのか。

この講座は、労働組合運動・社会運動に強い関心を持つ人々を対象とし、日本社会の危機に立ち向かう途をともに考える。

講師　**後藤道夫**（都留文科大学名誉教授）
開講　**5月16日（水）19:00~21:00**
会場　**東京労働会館地階**（中会議室）
会費　**7,500 円**（聴講1回 1,500 円）

教室に通えない人には CD 受講・音声受講もあります

CD受講　9,000 円
①音声 CD：CD プレーヤー再生用（1 回 3 ～ 4 枚）
②データ CD：パソコン再生用（1 回 1 枚）

音声受講　6,000 円
サイトから音声ファイル・資料をダウンロード（動画視聴もできるようにする予定）　※お申込みは東京学習会議 HP から

第 1 部〈貧困拡大と労働組合〉

2008 年 12 月からの「年越し派遣村」にはじまる「反貧困」運動は、民主党政権誕生の影の立役者となったが、現在ではその影響力は小さくなっている。本来、「反貧困」運動は街頭の救済活動が軸となった場合には、長続きせず、大きく成功するものでもない。貧困をなくす中心的パワーは、もともと労働組合運動である。なぜそうなのか。日本ではその通りになっていないのはなぜなのか。労働組合には何が求められているのか、考えよう。

第1回（5/16）　労働組合は貧困拡大とどのようにたたかえるのか？
第2回（5/30）　日本型雇用／その解体・縮小 と 労働組合運動

第2部〈歴史と展望〉

福祉国家という仕組みは、先進諸国が植民地を確保し支配する「帝国主義」の巨大な動きを支える国内体制として誕生した。このことをめぐる約 100 年間の歴史をふりかえり、新自由主義の歴史的位置、および、それに対抗する思想と運動の位置を考える。社会主義運動と労働組合運動は、なぜ、百年にわたって、右派と左派に分裂していたのか、今はどこが変わったのか、考えよう。

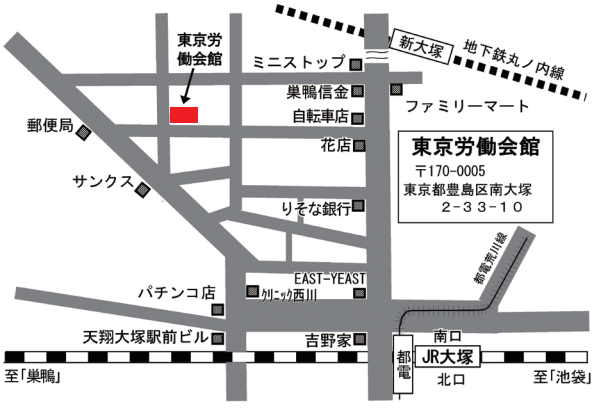
第3回（6/6）　帝国主義と大衆社会統合
第4回（6/20）　新自由主義と大衆社会統合の再収縮／対抗の展望

第3部〈求められる運動とビジョン〉

何よりも、労働組合運動を質量ともに強大なものとし、資本独裁を終わらせなければならない。労使関係の場で労働側が十分な力を持つことなしには、どのような制度改革も、政策もまともには動かないだろう。同時に、労働運動が強くなるためにも、どのような労働、生活、社会を目指してそうした努力をするのか、何を正義、公正と考えればよいのか、ビジョンが必要だ。歴史と経験に学びながら考えよう。

第5回（7/4）　質量ともに巨大な労働組合運動へ　資本独裁を打ち壊す
第6回（7/18）　福祉国家型生活保障と財源

【申込先】東京学習会議　Tel.03-5842-5646　Fax.03-5842-5647　gakusyuukaigi@gmail.com　http://gakusyuukaigi.org

2018 年　東京労働学校 134 期「講座・岐路に立つ日本」受講申込書　　月　日

氏名		男・女	年齢　才
住所	〒		
電話	自宅：　　携帯：		
E-mai			
受講方法	①教室受講　②音声CD受講　③データCD受講		※音声受講はwebサイトからお申込みください
団体名